

# 新日鐵住金大分工場およびトヨタ自動車九州宮田工場における 国内研修旅行についての報告

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター助教

渡辺 貴史

## [概要]

2015年12月10日および11日の二日間をかけて、1日目には大分県大分市の新日鐵住金大分工場、2日目には福岡県宮若市のトヨタ自動車九州宮田工場への研修を行った。この研修にはグリーンアジアの学生が33名、IEIの学生が17名、教員4名の計54名が参加した。両日とも学生諸君は旺盛な学習意欲を示して、工場関係者に質問をしたり、仲間同士で議論を交わすなど、終始活発な活動を続けた。期間中怪我や事故もなく、全員が充実した研修を行った。

## [研修の目的]

本研修の目的は、日本を代表する企業を訪問して、工場内の製品製造過程を見学し、また現場で働く技術者の声を聞くことによって、日本の製造業の現状を理解することにあった。特に留学生諸君に対しては、日本の重工業の現状を直接見ることによって、知見を深める機会を提供することにあった。さらに、多くの国々からの留学生及び日本人学生諸君が、ともに行動し議論しあうことで、互いに刺激し合い友好関係を育む機会を提供することであった。またその過程で、英語によるコミュニケーション能力を向上させることにあった。

## [日程]

日程は以下のものであった。移動はバス2台に分乗して行った。

12月10日(木)	
09:00-09:50	伊都キャンパス発→筑紫キャンパス着
10:00-13:50	筑紫キャンパス発→新日鐵住金大分工場着(途中パーキングエリアで昼食)
14:00	ビデオによる説明(新日鐵住金大分工場)
14:30-15:30	工場内部の見学
15:30-16:00	工場の技術者との意見交換
16:15-17:00	新日鐵住金大分工場発→宿泊施設
17:00	宿泊施設着
12月11日(金)	
09:30-13:00	宿泊施設発→トヨタ自動車九州宮田工場着(途中パーキングエリアで昼食)
13:00-13:30	ビデオによる説明及び工場に併設されているPR館の見学
13:30-14:30	工場内部の見学
14:30-15:30	工場の技術者との意見交換
15:45-17:00	トヨタ自動車九州宮田工場発
17:00	伊都及び筑紫キャンパス着、解散

## [学生への課題について]

まず学生は4～5名の小さなグループに分けられ、各グループそれぞれには1名の日本人学生が配置された。各グループでは、リーダー及び副リーダーがそれぞれ1名ずつ指名され、彼らはグループ全員が支障なく研修を行えるように様々な配慮をするように求められた。また日本人学生は、研修全般を通じて、グループ内の他の留学生の通訳の役目を果たすよう求められた。

その上で、グリーンアジアの学生には、次のような課題が与えられた。



12月11日トヨタ自動車宮田工場にて

## 研修旅行前:

●見学を訪れる両工場について各自下調べをしておくこと、及び見学当日にすべき質問を各自少なくとも二つは考えておくこと。

## 研修旅行中:

●各グループにおいて、それぞれ二つのレポートを提出すること。一つ目のレポートは、新日鐵住金大分工場についてのもので、これは翌日次の工場に着く前までに提出すること。

●レポートの執筆にあたって、グループ内の各学生が、それぞれレポートの一章を受けもつこと。また、リーダーと副リーダーには、レポートの編集と提出について責任をもつこと。

## 研修旅行後:

●研修終了後一週間以内に、トヨタ自動車九州工場の見学に関するレポートを提出すること。これも第一のレポート同様に各グループで作成し、リーダーと副リーダーがレポートの編集と提出について責任をもつこと。

## [総評]

総勢54名の大所帯となった国内研修であったが、学生諸君はグループごとにリーダーの指導のもと、きびきびとした態度で熱心な学習意欲を見せながら、つつがなく日程を終えることができた。工場見学及び技術者との質疑応答の際には、日本語での説明を日本人学生がそれぞれのグループメンバーに対して逐一通訳をし、また留学生が英語で質問する際には、分かりやすい日本語に翻訳して伝えていた。どちらの工場においても、質疑応答は予定時間を超えて続けられ、学生諸君からの質問が絶えることはなかった。

宿泊施設に到着して後は、各自夕食を済ませた後も、遅くまでレポートの作成に従事していた。課題である二つのレポートは、すべての各グループから締め切り前に提出された。提出されたレポートは、いずれも英文レポートとしての体裁を整えており、また規定の文字数を満たした内容の濃いものに仕上がっていた。

以上のことから、今回の国内研修は、十分にその目的を達成したものであると思われる。